

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800120	事業の開始年月日	平成21年10月	
		指定年月日	平成27年9月	
法人名	(株)ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター荏田東			
所在地	(224-0006) 横浜市都筑区荏田東4-18-23			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年11月	評価結果 市町村受理日	平成30年3月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>2ユニット其々を1つの家庭と考え、共に支え、楽しく生活しています。 お客様が自宅でされていたことを職員と共に *出来る事はご自分で *寝たきりにさせない *メリハリある生活を *残存機能を維持する を目標に掲げ、お客様が、その人らしい生活が送れるように支援しています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年11月27日	評価機関 評価決定日	平成30年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は市営地下鉄、センター南駅から徒歩約10分、区役所や警察署など公共機関が集まる駅周辺部からはやや離れた都筑中央公園に隣接し、周囲に畑が残る静かな環境にある。屋内外ともバリアフリー構造である。開所から12年目を迎え、当初から勤務する管理者の下で10名以上の方を看取っている。</p> <p>【手作りの小物を通じたコミュニケーションの促進】 入居前のアセスメントで利用者像を把握して、その人らしい部屋の表札を手作りし、色紙に似顔絵を描いて歓迎するところから、この事業所での生活が始まる。季節の行事や祝い事には、手作りのメッセージカードやプレゼントを欠かさず、家族にも手作り小物を贈ることが家族との関係づくりにもつながっている。職員が互いの得意なことを活かし合って作業をすることは、職員同士のコミュニケーションを深めている。手作りへのこだわりが家庭的な雰囲気を作り出している。</p> <p>【地域の中で様々な交流を持ちながら暮らす日々】 つづきの丘小学校が近く、子ども110番の家になっているため、普段からよく小学生が立ち寄る。教諭らの理解もあり、小学生が事業所の畑に芋ほりに訪れ、掘った芋をホームで調理して振る舞ったり、運動会に招かれるなど、交流が盛んである。晴れた日は必ず散歩に行き、区民祭や自治会の祭りに積極的に出かけている。近隣住民から野菜のおすそ分けをもらったり、ホームの毎月のレクリエーションには多様なボランティアが来訪するなど、日々様々な交流がある。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	そよ風

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念である、「明るい笑顔、愛する心を大切にします」「感謝の気持ちを大切にし真心をこめて介護します」を職員一同共有し管理者の指導の下、ケアの実践に努めています。	理念は開所時に管理者と職員で作成した。「笑顔が一番の薬、高齢者の軌跡の上に今の私たちの生活があることへの感謝、プライバシーが一番大事」という思いを込めたもので、入職時に管理者から職員に説明するほか、所内に掲示して共有している。人員不足で仕事が大変な時などに先輩職員が率先して声をかけ、理念に立ち戻り職員間で確認し合いながら業務に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩時に、入居者や職員共々近所の方々との挨拶や会話を通して交流しています。地域の祭りや運動会や清掃活動への参加をし、関係を保つようしている。	荏田東4丁目自治会にユニットごとに加わっている。秋祭り、運動会（見学）、清掃活動、防災訓練に参加している。つづきの丘小学校とは、運動会へ招待されたり、小学生がホームの畑に芋ほりに訪れるなどして交流がある。散歩時には近隣住民と挨拶を交わし、野菜や果物のおすそ分けをもらうなどしている。傾聴や歌、日舞、箏など多様なボランティアが定期的に来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からのご質問や相談を受けることはこれまでありませんでした。今後は地域に向けての機会をもっと作っていきたいと考えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的ではありませんが、ご意見をお聞きし、それを現場に反映するよう努めています。	概ね2か月に1回開催している。自治会長、民生委員、職員、家族代表のほか看護師や近隣住民が参加することもある。職員配置の決定を優先して開催日時を決めているため、地域包括支援センターへの案内が会議直前になる事が多く、参加を得られていない。また区の担当職員から運営推進会議に出席したいとの希望を聞いているが日程が合わず実現していない。活動報告のほか、高齢者の事故や看取りなど、事業所の状況に合わせて議題を設定し、話し合っている。	年間開催予定等を立て、なるべく予定通り開催することで、区の担当職員や地域包括支援センター職員にも参加してもらい、さらに充実した運営推進会議が開催されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務的手続き以外にも色々な相談を行なっています。主に管理者が行い協力関係を築いています。	都筑区高齢支援課といつでも相談できる関係がある。介護保険の更新申請等の事務手続き、空室状況の報告などで月1回程度は出向している。往診専門病院主催の勉強会などの案内を受けている。区主催の感染症の研修に参加した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠せず、身体拘束はしていません。身体拘束の意味を理解する為、勉強会を開き、職員の意識を深めています。	日中は玄関、ユニットとも施錠していない。居室の扉は、内側から施開錠できる。玄関脇の事務所から事務員が利用者の出入りを見守れる。外に出たようなそぶりが見られた時には、職員が付き添って出かけたり、気持ちが変わるような話をして、「ダメ」と言わないことを最優先してケアしている。出かけたい理由を把握したり、信頼関係を築くことで突然の徘徊が起こらないようにしている。身体拘束および虐待をテーマとする所内研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は虐待について理解し防止に努め、身体チェックはまめにおこなっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方を通して、制度について具体的に学ぶことがあります。逆に制度についてその方にご説明することもあり、制度を正しく理解し活用できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には十分に時間をかけ説明をおこない、質問にも丁寧に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との会話の中で、ご要望や意見を聞きとり、その都度報告をし合い、要望については現場に伝え反映しています。	地域の秋祭りや事業所の行事に併せて家族会を開催している。10名程が参加している。「利用者の体重が増えているので減量してほしい」「処方箋が欲しい」などの意見に対応し、こんにやく由来の米粒状加工食品を提供したり、薬の変更時にその内容を伝えたりしている。法人が実施する顧客満足度調査でも要望や意見を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、管理者と職員との面談や会話のなかで意見や提案を聞いています。	職員は意見を管理者に直接伝えたり、月一回開催の職員会議や勉強会で伝えている。管理者が常に職員に問いかけ、言いやすい雰囲気作りに努めている。内容が重複して負担が多かった記録帳票の精査・整理や、利用者対応ルールの不統一の解消、個別のプランの新たな目標設定や食堂での座席の変更など、種々改善されたことがある。管理者は定期的な面談は行っていないが、必要と思われたときに空き時間を使ったり一緒に食事をしながら職員の話聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤怠を把握し、必要に応じて個人面談をしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がケアにあたる様子を観察しながら指導し、特に新人職員には折にふれケアの指導や教育をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通し、職員が他施設へ見学・交流する機会があればと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においては受け入れられていると感じて頂けるよう特に気を配り、話を傾聴して、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者は初期段階で、ご家族様からの要望や不安なことなど聞く機会を積極的に設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者はご家族様の要望だけでなく、ご本人の様子を見たり、お話をしたりして、見極めをしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として日常的な活動を行ない、お互いが家族の一員として関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活をお伝えしながら、面会の際はご家族様との時間を十分持って頂けるよう支援しています。必要時にご家族としての支援をお願いする事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問を受け入れ、訪問しやすい雰囲気や声かけを心がけています。	窓際に衣類を吊るすなど、入居前からの細かな習慣を尊重して受け入れている。継続して新聞購読している方が4名おり、職員が古新聞を入れる袋を作っている。昔の職場や近所の知人が来訪された時は、また来てもらえるよう意識して職員が言葉をかけている。手紙を書く人は少なくなりましたが、電話をかける援助はしている。近隣に在住していた利用者が散歩に行くときには、馴染みのある方面に行くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ボツンとして居る方がいれば交流の輪に入りやすいように声かけしたり、誤解がある時には仲裁に入り、関わりあえるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望があればご家族様からの相談についてはいつでも応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々声かけし、一人ひとりの思いや希望を会話の中で把握し、管理者と職員がご本人にとって最善な方法は何かという視点で検討しています。困難な場合は表情や態度から汲み取っています。	日常生活での声掛けや、入浴や散歩時の1対1で話せる機会を大切にしている。困りごとや意向を聞いている。緊張したり、病気で言葉が出づらい方は表情や態度から読み取っている。「自由に旅行したい」など利用者が新年に書いた抱負も参考にしている。聞き取ったことは「連絡ノート」に記載して共有し、会議で報告もしている。ホームのあじさい祭では、職員が利用者ごとに得意なことや様子を詩にして掲示しており、一人ひとりをよく見てケアしていることがうかがわれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から初期の段階で聞き取り、ご本人からは毎日の生活を通して、把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で把握しながら、職員間でも共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的モニタリング、サービス担当者会議を行い介護計画に反映しています。ご家族様からもご要望や提案聞いています。	入居時に暫定プランを作成し、1か月後に本プランを作成している。プランは3か月、状態が落ち着けば6か月で見直している。計画作成担当者が居室担当者や他の職員から、事前に歩行状態の変化など、状況や気づきの報告・意見を聞き、モニタリング当日に出勤している職員で変更点などを話し合っている。医師、看護師、薬剤師にも相談している。介護計画を共有し、最近の変化や支援内容を目標に沿って記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を把握し、連絡ノート、個人記録に記入し、職員同士情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況・要望に応じて、買い物支援、自宅への帰宅等、柔軟に支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加しています。散歩時には近くの公園に立ち寄り、ご近所の方々と会話したり、自然を楽しんだりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の同意のもとに、往診医と連携をとり支援しています。入居前からの医療機関を希望される方はそちらと連携をとり、納得いく医療を受けられる様にしています。	内科の協力医と歯科医は月2回、訪問看護師と歯科衛生士は毎週来訪している。開設当初、1名、泌尿器科のかかりつけ医に通院する利用者があったが、近時、その医師の往診で対応できることとなり、現在、家族対応の通院は無い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は個々の利用者の日常の情報や気づきを管理者及び訪問看護師に伝え、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は往診医からの情報だけでなく、ホームでのADLなどの情報も送り、退院後スムーズにホームでの生活に戻れるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者は入居時はもちろん、ご本人の状態を見ながら、早めにご家族と話し合いを重ね、方針を共有し、チームで支援に取り組んでいます。	「重度化した場合における対応に係る指針」があり入居時に説明している。開所以来10余名を看取った。終末期対応や救命救急についての研修を頻回に実施しているほか、看取り開始が決まるとすぐに勉強会を開き、状況や急変時の手順を確認し、職員のシフト構成にも配慮して対応している。家族には今後の見通しを丁寧に説明し協力を依頼している。運営推進会議で看取りについて伝えている。管理者は経験が豊富で、緊急時の医師との連携体制ができている。職員は看取りを行う事業所であることを自覚している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を受け、訓練も重ねています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行なっています。地域の方々との連携体制は強化したいと考えています。	年2回避難訓練の計画があり今年7月と9月に火災と地震を想定した訓練を行った。屋外のコンテナに着替えなどを入れた個別のリュックを保管しており、持ち出す訓練もしている。地域の防災訓練には参加し、自治会長や近隣住民、ボランティアにホームの避難訓練にも参加してもらえよう声をかけているが実現していない。年1回は消防署員の訪問があり、車椅子での避難についての指導などを受けている。災害発生時の対応の研修も実施している。2階踊り場にレトルト食品や缶詰、ご飯、水など3日分とパットやペーパー類を備蓄している。	食料の備蓄に期限切れの品も見受けられましたので、管理方法についての再検討を望みます。また、カセットコンロなどの熱源の確保についても検討が望まれます。さらに非常時に地域の協力が得られるよう、働きかけの継続を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念が人権を尊重する主旨のものであることに加え、常々言葉遣いや対応については管理者が指導しています。	訪問時には「〇〇さん。ありがとうございます。お願いします」と丁寧な言葉が掛けられ、食事の際には食べたいもの確認しながら介助する様子が見られた。利用者の意思を尊重し「『ダメ』は絶対に言わない」ことを最優先としてケアするようにしている。個人情報保護についての研修を実施し、外食時などに利用者の名前を出さない等、理念にも掲げるプライバシー保護の徹底を職員に促している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が話しやすいような声かけをしています。どうしたいのかを聴く耳を持ち自己決定できるよう支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床についてはその方のペースや体調に合わせています。居室で過ごされることが多い方にも、無理強いをしないで尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時ご自分で出来る方は更衣・整容をしていただいています。必要な方には服を見せて選んで頂く等、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、食事作り、盛り付けを行なっています。食器の片付けは出来る方にお任せしています。	メニューはその日に利用者と相談して決めている。出来る方は食事作りや下膳、食器洗い、お盆拭きを手伝っている。車椅子の方も椅子に座って食べられるようにしている。家族の希望も受け、希望者数人で介護タクシーを利用して外出に行くこともある。外出時に普通食では難しい方も、食べられる物を持ち込んで一緒に雰囲気を楽しむようにしている。散歩中の公園にお弁当を作って届け、日常とは違う環境の中で食事をする工夫をして食事が楽しみなものになるようにしている。出前の寿司などを取ることはあるが、手作りの食事を重視し、新鮮な食材を管理者が2～3日に一度買い出しに行っている。職員は見守りや介助を一人ずつ、しっかり行うため、一緒に食事をしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に確実に残しています。水分摂取の働きかけ、食事摂取の援助を行なっています。ご希望により食事量の調整もしています。(医師指示のもと)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後全員必ず口腔ケアを実施しています。入れ歯の手入れも確認し、職員管理の下、毎日洗浄剤を使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、時間を見計らってトイレ誘導する事により、失禁を減らし、トイレでの排泄の自立を支援しています。	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握してトイレに誘導している。パットの濡れ具合を確認しながらパッドをはずすことを提案し、排泄の自立を促している。利用者に失敗の不安がある時はリハビリパンツを使用したり、夜のみパッドを使用するなどの配慮をしている。浴室と中扉で接しているトイレがあり、失敗した際に羞恥心に配慮した対応がしやすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づき、ヨーグルトやオリーブオイル等、飲食物を工夫したり、水分摂取や運動を行なっています。	/	/
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	目安としての入浴回数は決まっていますが、介助する職員が会話をしたりして、入浴を出来るだけ楽しんで頂くように心がけている。	概ね週2回、1日に2～3人が入浴している。お湯は入浴の都度、入れ替えている。同性介助の希望があれば対応するが、今は希望者はいない。手すりや滑り止めマットを完備しており安心して安全に入浴できる。入浴剤は滑りやすいため利用を避けているが、季節の菖蒲湯、ゆず湯は楽しめるようにしている。入浴を好まない方には人を替えて声を掛け、最後には管理者が促している。1対1でゆっくり話せる時間として大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく活動を促し夜グッスリ眠れるようにしています。（午睡時間は30分と決めています。）布団干し、シーツ交換、就寝前ゆっくり過ごして頂く事により安心して睡眠出来るよう工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し、一人ひとり決められた薬を服薬するようにしています。医師、薬剤師との連携がとれるようにしています。薬の処方が変わったときは、よく観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあったお手伝いをして頂き、感謝を表して張り合いある生活を送って頂くようにしています。ゲーム、散歩、談話、カラオケ等気分転換になる支援も工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の散歩を日課としてます。ご本人から要望があった時にはご家族様に協力して頂き出かけて頂くようにしています。	都筑中央公園が至近の環境を活かして、晴れた日には毎日30分ほど散歩に出ている。職員1人と利用者2人（うち1人は車椅子）の組合せで、皆が外に出られるようにしている。四季折々の草花、川の鯉、富士山を眺めるなど、希望により様々なコースを設定している。駅前で行われる区民祭りや自治会の祭り、小学校の運動会に出かけている。以前は遠方にも皆で出かけたが、車椅子の利用者が増え困難になり、介護タクシーを使って希望者数人が外食などしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については事務所で管理しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	クリスマス・年賀状・暑中見舞いなど送っている方がいます。書かれたときにはポストと一緒に投函します。電話をかけたいときは希望に沿っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく生活できるように毎日清潔に掃除をしています。季節に合わせたディスプレイも行なっています。	居間に加湿器を置いて適切な温湿度を保ち、窓を開けて換気に配慮している。除菌噴霧剤を利用して感染症の予防に努めている。居間は広々とし、大きな窓から自然光が入って明るい。トイレ前の床とドアにわかりやすい印と表示がある。季節にちなんだ作品や花を飾り、照明や室内の色調は穏やかで落ち着く設えである。担当職員と利用者が定期的に掃除を行って清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓テーブルと椅子がありその時々で交流出来るよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はもちろん適宜、使い慣れた家具、衣類を居室に置いて頂くよう、ご家族に依頼しています。	照明、エアコン、カーテン、クローゼット、スライド式ハンガーが備え付けである。仏壇、馴染みの机や椅子、扇風機、ラジオなどが持ち込まれ、家族の写真、カレンダー、季節や祝い事のカード、利用者の作品や散歩で摘んだ花が思い思いに飾られている。たんすの引き出しにラベルを付けて衣類を整理するなど、気持ちよく、安心して過ごせる居室が整えられている。居室担当制をとり、衣類の管理などを行っている。出来る方は一緒に埃吸着用具などを使って掃除をしている。畳で生活していた方が安全のため、就寝時に共用の和室を利用することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓の椅子にご自分の座布団を置いて頂き席が分かるように、またご自分の部屋の場所がわかるように表札をつけています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニチイケアセンター荏田東

作成日

平成29年3月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議が定期的 にできない	2ヶ月に一度必ず行なう	確実に1年間の予定をたて 事前に伝える。	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。